

# 第18回オーライ！ニッポン大賞 応募用紙

**1 応募部門** ※該当する部門に○を付けて下さい。複数選択可。

- 1- 学生若者カツヤク・都市のチカラ部門
  2- 交流イノベーション部門
  3- 農山漁村イキイキ実践部門

**2 応募者の情報** ※団体、企業、個人等。

<b>名称</b>	フリガナ ●●●●●● ●●●●●●		
<b>代表者名</b>	フリガナ ●●●●●● ●●●●●●	<b>代表者の職名</b>	代表
<b>担当者名</b>	フリガナ ●●●●●● ●●●●●●	<b>担当者の所属・職名</b>	同上
<b>連絡先</b>	住所 〒●●●●-●●●●  神奈川県横浜市○○区○○-○○-○○		TEL 045-○○-○○○○
			FAXL 045-○○-○○○○
	WEB サイト(URL) https://www.●●●●●●.com		電子メール info@○○.gmaik.com
			Facebook のユーザーネーム ●●●●●●

**応募者と別の方（他薦・上記応募者と異なる場合）が応募する場合は、連絡先を記入ください。**

<b>担当者名</b>	フリガナ	<b>担当者の所属・職名</b>	
<b>連絡先</b>	住所 〒	-	TEL
			FAX
			電子メール

**3 取り組んでいる活動部門の属性** ※該当する部門に○を付けて下さい。複数選択可。

- 1- 都市農山漁村交流
  2- 定住・帰農の促進
  3- 農林漁業の支援  
 4- 子どもの体験活動・教育旅行に関する取組
  5- 地域資源の利活用・商品開
  6- 食に関する取組  
 7- 環境保全活動
  8- 地域づくり
  9- 地域文化継承・創造  
 10- 起業や雇用創出の取組
  11- その他（ ）

**4 応募者の概要**

①活動年数	現在までの活動年数（ 4 ）年 前身の活動年数（ 1 ）年 ※現在の取組みの前身となる活動・組織がある場合は、その活動年数もご記入ください。		
②主な活動地域名（市町村名） 主な活動拠点施設名	都市からの参加者の送り込みは●●県●●市の●●事務所 農山漁村での体験講座の場所は、●●県●●村 廃校活用施設●●		
③活動を担う人材 （スタッフ）の数	（2019年度は地元協力者ボランティアを含めてのべ50）人 うち専属スタッフ（2）人		
<b>5 活動の実績・効果</b> ※活動の実績と効果について、数字で示せるものをご記入ください。	<b>年間交流人数</b> ※イベント等の参加人数	<b>年間売上金額</b> ※参加費、産品販売金額等	<b>年間活動の日数</b>
2020年度 （4月～12月）	新型コロナウイルス感染症の拡大による体験講座の中止により0人	体験活動中止に代わり新たに地域産品の販路開拓をネット販売の手伝い事業を推進し約30万円の特産品の売上	左記のネット販売活動に約80日+講座中止及び次年度の企画立案に約20日
2019年度	250人（体験講座参加者、企業からの研修参加を含む）	体験講座の参加料約250万円	100日
2018年度	200人（体験講座参加者）	体験講座の参加料約200万円	100日
これまでの累計	試験的体験講座開始から4年間で400人		400日

**6 活動資金について**



地元の協力していただける農家の指導の下、実習する参加者を募るために、

.....  
.....  
.....  
.....

3) 農業を中心としたコミュニティビジネスを視野に入れ農村生活の練習を行う。

.....  
.....  
.....  
.....

### ③ 活動の成果及び効果

●●●● (体験講座)

●●地域にて●●●●参加プログラムをこれまで約●●回実施。のべ参加人数●●●●人

(参加者のほとんどは東京圏からの参加であるが、その他、地方の大学生や企業の参加がありました。また、これまでは、アメリカ、フランス、中国出身者も参加しています。リピート率はおよそ2割です。新型コロナウイルス感染症の拡大により2020年度は体験講座を中止にせざるを得ず、その代わり始めた当該地域の特産品販路開拓支援のネット通販には、かつての講座参加者の多くが支援の意味も込めて購入や紹介の手伝ってくれました。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大により、リモートワークが推進されていることから2度目の緊急事態宣言が出る前に、当該地域にリモートワークの滞在をお試しする参加者も現れており、関係人口の創出の機会としても、当プログラムが貢献することができたと感じています。)

地域農業のリーダーの●●●さんの指導と地域の人々との協働作業への参加機会を得ることができて、まだ大きな成果が出ているとは思いませんが、これまで、農業や森林について関心をもつ機会が少なかった〇〇市の子供たちや親御さん、学校関係者にもイベントなどに参加していただき機会も増え、一緒に農作業を行った後の食事会などを通じて、今後の取組への協力も得られることができました。また、企業や都市部の福祉関係者からの農業イベントへの参加要請や協力依頼も徐々に増え、地域の農家お母さんたちのグリーン・ツーリズムの出番も増えてきています。新型コロナウイルス感染症の拡大により、高齢者の多い農山漁村地域では、本体験講座も一時中止、延期していておりますが、一部の参加会員とともに作業した農産物のネット通販なども好評をいただき、終息後の農作業を楽しみにまっています。

#### 「試行期間」

- ・2015年、第1期体験講座 春プログラム名●●●●
- ・2015年、第1期体験講座 夏プログラム名●●●●
- ・2015年、第1期体験講座 秋プログラム名●●●●

#### 「本格実施」

- ・2017年、第2期体験講座 プログラム名●●●● (年間を通じて5回実施)
- ・2018年、第3期体験講座 プログラム名●●●● (年間を通じて5回実施)
- ・2019年、第4期体験講座 プログラム名●●●● (年間を通じて5回実施)
- ・2020年、第5期を実施する予定であったが新型コロナウイルス感染症の拡大により感染拡大を避けるために中止

④ 過去の受賞歴について（受賞したものがあればお書きください。）

特に無し

⑤ ここ数年間の各種マスコミへの掲載等について

（新聞、雑誌、テレビ番組等、メディアで紹介されたものがあれば、番組名、見出し等をお書きください。）

〇〇新聞2018年12月（「〇〇〇〇〇〇〇」〇〇〇〇で、〇〇〇〇が〇〇〇）

〇〇新聞2019年8月（「〇〇〇〇〇〇〇」〇〇〇〇で、〇〇〇〇が〇〇〇）

〇〇新聞2020年6月（「新型コロナウイルス感染症にも負けない」〇〇〇〇が〇〇〇〇で〇〇〇）

〇〇〇ラジオ2019年5月 〇〇〇〇の活動好調

〇〇WEBマガジン2020年10月 こんな時代にも〇〇〇〇で将来に備える〇〇〇〇

（関連写真の貼り付け）

写真1. 実践している農場

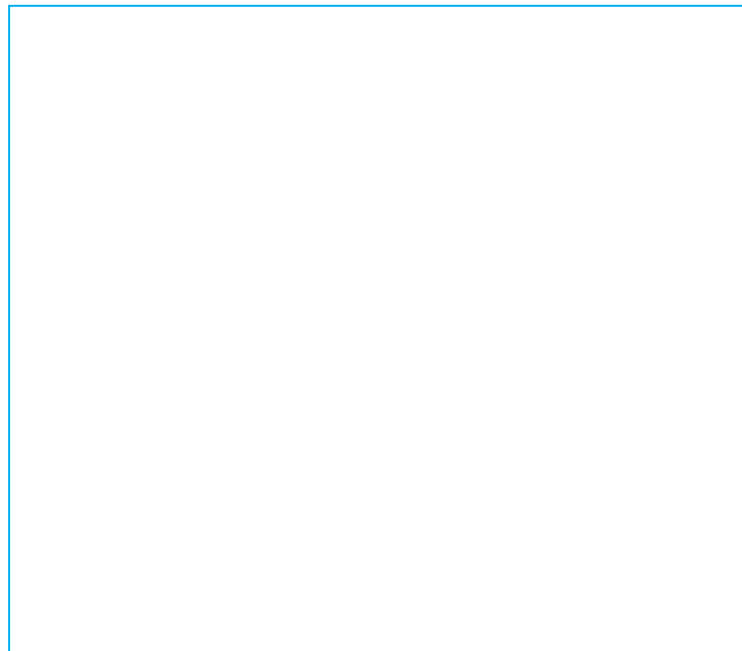


写真2. コロナ禍により、オンラインで農業の説明をする農業リーダーの●●●さん

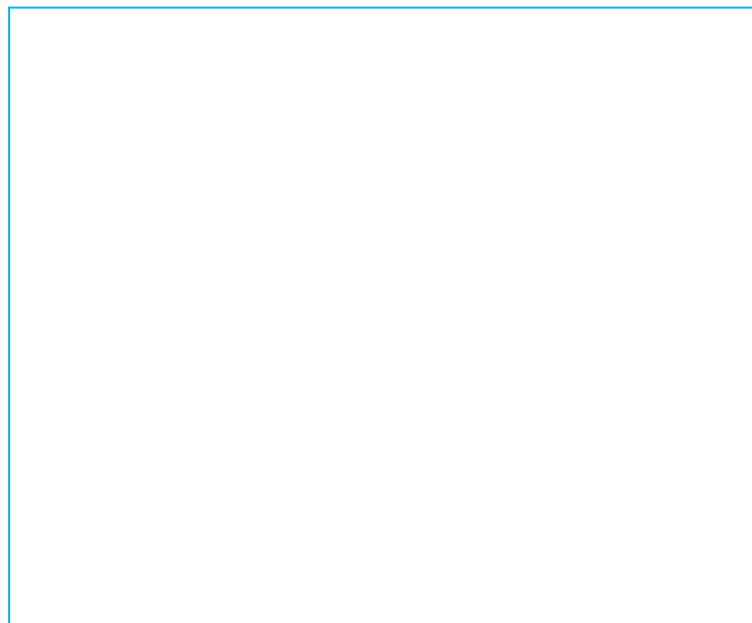


写真3. 昨年度の体験講座の実習（農作業）風景

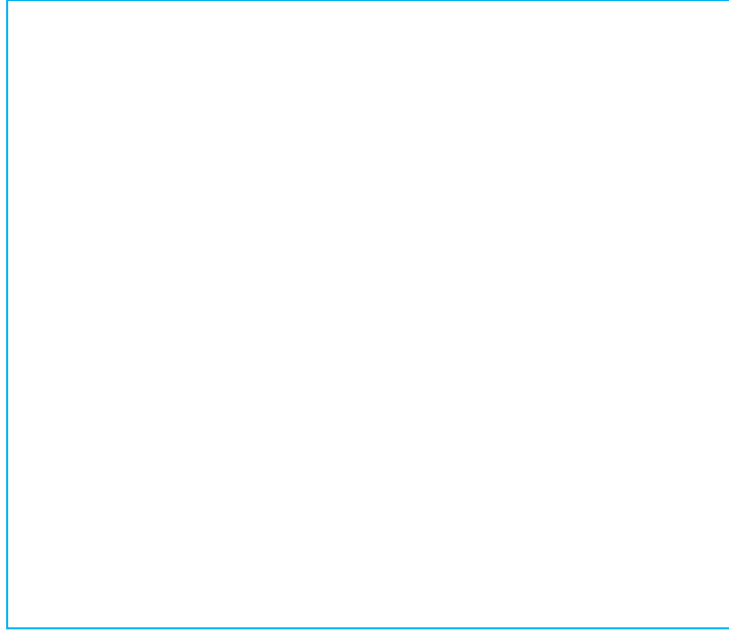


写真4. 本年度、コロナ禍により講座を中止したため、新たに取り組んで、特産開発とネット通販の様子

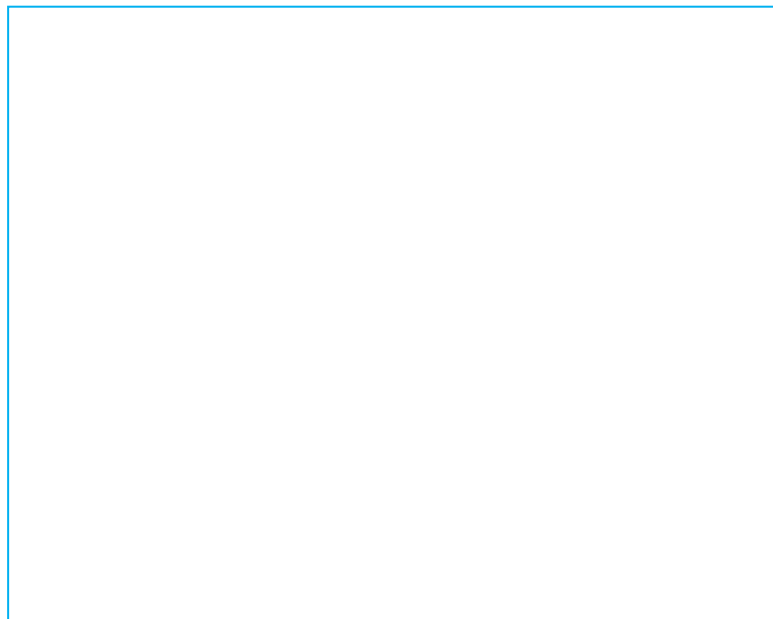
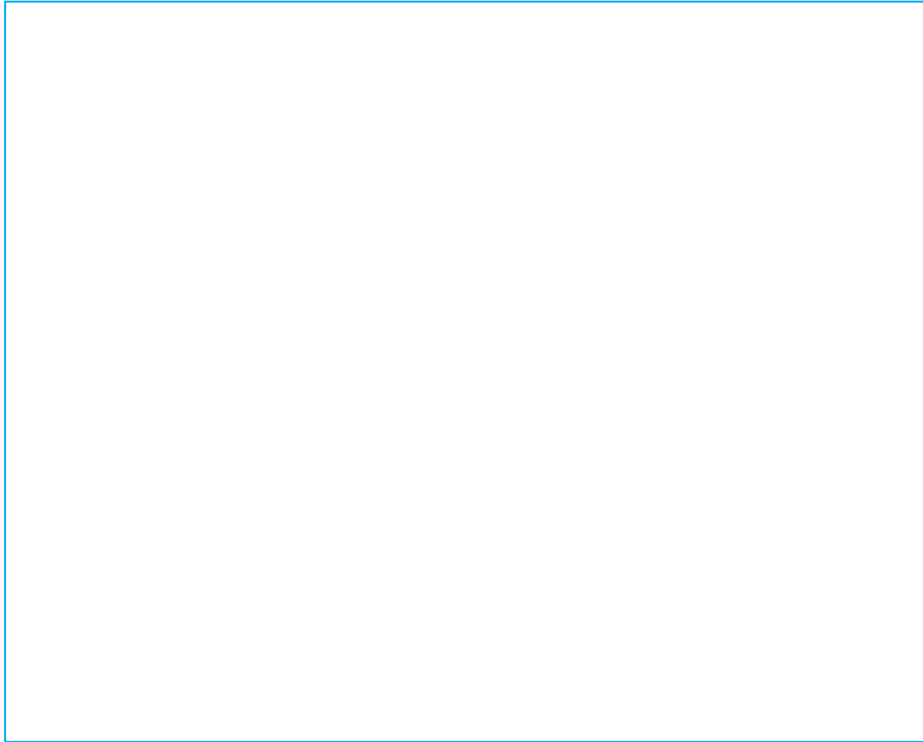


写真 5. 昨年度の講座実習生の集合写真



★ 情報公開の可否

応募内容（応募用紙の記載内容、添付写真など）について、主催者が農山漁村の共生・対流の幅広いPRのために、パンフレットや冊子、ホームページ等への掲載に使用することをあらかじめご了承いただけますか？

はい  いいえ

★ 写真の添付について

応募内容に関する具体的な活動の様子や実績が分かる写真をご用意ください。枚数は5枚程度に絞り込んでください。データでも紙焼きでも可能としますが、解像度の高い鮮明な写真で活動の魅力が伝わるものをお送りください。（データ容量が大きい場合はファイル転送により送信も可能です。）

★ 参考資料の添付について

応募内容の様子ที่分かる資料（応募内容が紹介された記事、応募内容に関連するパンフレット等）があればご提供下さい。また応募団体の組織の規約（法人の場合は定款）、直近の事業報告書（収支決算書を含む）があれば添付して下さい。資料はコピーやデータ可(PDF)し、メール添付提出が可能です。